

<構想の名称>

「いわて自然村建設プロジェクト」～眠る自然を呼び起こし人が集う元気なまちづくり

<背景>

1. 岩手県は豊かな自然の宝庫でありながら、農林業等の後継者不足や高齢化，産地間競争の激化によって、農地・森林などの資源が荒廃しはじめている。
2. 食料自給率が104%で全国の上位でありながら、「いわてブランド」が確立されていない。
3. ロハスやスローライフへの共感が広がり，自然や田舎，食の安全安心への関心が高まっている。
4. 経済状況悪化に伴い有効求人倍率が低下している。また，若者の県外流出が続いている。
5. 地球環境問題がクローズアップされ，岩手のCO₂削減目標「平成2年度比で8%削減」に取り組んでいるが，実現が難しい状況にある。
6. 観光客の入込数は横ばいである。

ねらい

1. 恵まれた資源（農地・森林）の荒廃を食い止めるために，岩手の人々が力をあわせる。
2. 元気な自然（農地・森林）を蘇らせ，体験型観光スポットとして県外にPRし，人を呼び込む。
3. 食料における「いわてブランド」を確立し，流通戦略を整える。
4. 「レジャー」を活用した観光および町や集落の活性化をはかる。
5. 雇用の創出につなげる。（将来的には本取組みを県全体に拡大する。）
6. 親子に，農林業を体験してもらい食育につなげる。
7. 植林や森林整備によりCO₂を削減する。
8. 高齢者の生きがいづくりにつなげる。

<構想の基本的考え方> 「ねらい」を達成するために何をするのか

「いわて自然村建設プロジェクト」によって，農林業にスポットをあて，それらの資源を活用した「岩手に人を呼び込む方法」「岩手のものを県外に発信する方法」を確立する。

1. 就職しやすい環境づくりと，過疎地域の活性化（レジャー含み）によって，みんなが住みたくなる環境に優しい町づくりを行なう。
2. NPO等の団体を立ち上げ，耕作していない田や畑などを再生し，自然に優しいものづくり（無（低）農薬で安全安心な農作物）を行なう。（将来的には企業や法人による経営を目指す）
3. 若者を中心に，就農経験者や高齢者が活躍できる雇用の場とする。
4. 新たな「いわてブランド産品」を開発する。
5. 食育につながる体験学習の場を提供する。

<構想に基づく取組等の概要（具体的な内容）> どこで誰が何をするか

1. 場所の選定
 - ・振興局ごとにそれぞれの地域特徴を活かした(農林業)モデル地域を選定する。
2. 人（組織）の選定
 - ・立ち上げ団体（行政，NPO，法人・企業，第3セクター）を設立する。
 - ・人を集める。

専業従事者（県内外の若者，定年退職者が働く場）

スタッフ（県内外の就農経験者や高齢者が講師として活躍する場）

ボランティア（県内外のサラリーマン(休日の労力提供)が生きがいを見出し、子どもたちが自然を体感できる場）

3．資金の調達

- ・国や県などの補助金を活用する。
- ・企業からの賛助金を集める。
- ・個人からの賛助金を集める。

4．何をやるか（作るか）

- ・林業 植林，伐採，ログハウス，間伐材を利用した木工製品など
- ・農業 無（低）農薬で安全安心な農作物，岩手の自然に合った花きなど
- ・体験型の企画によって，観光客を呼び込む。（グリーンツーリズム）

<取組にあたっての役割分担（県・県民・NPO・企業・団体・市町村など）>

県

- ・団体，組織の立上げ（振興局）
- ・様々な融資の提供
- ・自然村のインフラ（土地，道路，電気，上下水道）整備
- ・ITなどを活用した全国への情報発信

市町村

- ・活用可能な土地の把握
- ・近隣住民への橋渡し役

企業

- ・賛助金の協力と従業員による技術力の提供
- ・資材（機械や道具など）および整備点検などのメンテナンス提供
- ・企業特典の提供（格安運搬費，JR運賃の割引）
- ・従業員への商品斡旋
- ・新たな「いわてブランド産品」開発の協力

農協

- ・指導者の派遣
- ・道具とノウハウの提供

NPO

- ・組織の運営，維持，管理

県民

- ・賛助金や労力の提供
- ・資源（土地や住宅，機械，道具など）の提供

<構想のイメージ図>

